

ビデオ電話でつなげたコミュニケーション囲碁
「YOROSHIKU ONEGAISHIMASU」と「ARIGATOU GOZAIMASHITA」

8月最後の土曜日、この日かねてより行いたかった事が実現できました。ガーナと日本の時差は9時間あります。ガーナ時間午前11時、日本時間午後8時に首都アクラにある私の住まいと新宿囲碁サロン天元をビデオ電話でつなげコミュニケーション囲碁をしました。新宿にある囲碁サロン天元のマネージャーのあきこさんにはたいへんお世話になっております。今夏の一時的帰国の際にはガーナイベントを2回も行わせていただきました。去年もガーナイベントをさせていただきました。囲碁サロン天元をあきこさんと一緒に立ち上げたのが安田泰敏先生(囲碁棋士9段)です。安田先生は2018年5月にすい臓がんでお亡くなりになりました。安田先生は中学生の自殺を知り、囲碁をコミュニケーションツールに出来ないか?という思いからコミュニケーション囲碁を開発されました。安田先生とあきこさんの活動は日本国内におさまることなくミャンマーでもコミュニケーション囲碁を広めています。そして、ついに安田先生とあきこさんの囲碁を海外に広める想いをガーナでも実現することが出来たのです。コミュニケーション囲碁は、対局する前に対局相手と挨拶をすることから始めます。「YOROSHIKU ONEGAISHIMASU」この言葉から始まります。そして終わりは「ARIGATOU GOZAIMASHITA。」1時間にわたる囲碁対局。首都アクラでWi-Fiがつながりやすい場所という事もあり回線が切れることなく速度も遅くなくビデオ電話での対局が出来ました。時間、Wi-Fi、場所と条件がどれも良かったので今回のコミュニケーション囲碁は、大成功でとても楽しいものでした。安田先生も天国であの優しい笑顔で微笑みながら見てくださっていたことでしょうか。アフィフェ村でもとりくみしたいなと思います。条件が厳しくなってくるかと思いますが、日本と対局をしたアパートの住人のダバスレイ16歳はよっぽど楽しかったのか翌日に「トシコ、昨日はありがとう。楽しかった。」と言ってくれたほどです。普段から私の日本語を真似て「ありがとう。」という日本語は使っているもの、「よろしくお願いします」「ありがとうございました」のあいさつを覚えたのもうれしかったのでしょうか。何よりも遠く離れた日本と初めてビデオ電話でつながり、囲碁をしたことはとっても刺激を受けたことでしょうか。コミュニケーション囲碁、今後もおこなっていきます。

ガーナ挨拶 No28
國分敏子

